

つなぐたすきが復興へと

東 日本大震災からの復興支援として、青森県から東京都までの被災地をたすきでつなぐ、縦断リレーが開催。昨年に続き旭市内を駆け抜けました。

駆け抜けたのは8月5日と6日の二日間。たすきを受けて走る姿に、たくさんの声援が送られていました。またゲストとして、お笑い芸人の小島よしおさん、本市からパラリンピックで2大会連続金メダリストの荒井のり子さんが参加。走り終わると小島さんは「旭市のことを伝えられたら」、荒井さんは「早く元のようにしてほしい」などと話していました。



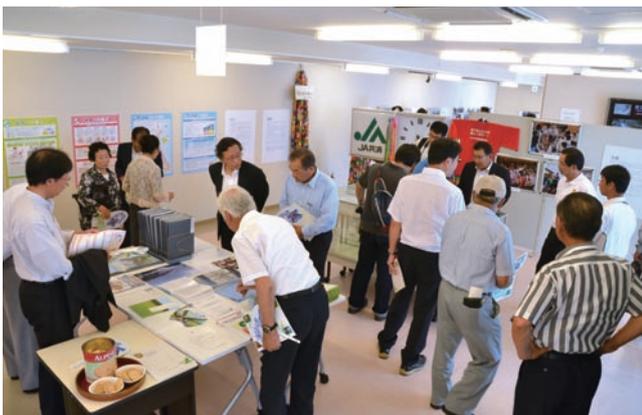
①市民ランナーと走る荒井さん(手前)
②津波被害の遭った海岸線を駆け抜ける
③「持ちネタ」も披露してくれた小島さん

旭市防災資料館オープン

震災の記憶を後世へ

東 日本大震災の記憶を後世へと伝える旭市防災資料館が7月19日、旧食彩の宿いおか荘1階にオープン。被災の状況を紹介する写真やパネルなどに加え、全国から寄せられた励ましの手紙の数々も展示されています。

また資料館では、館内に展示する震災にまつわる品々を皆さんから募集しています。くわしくは、商工観光課観光班(☎62-5338)まで。



展示品を眺める来館者たち

「優勝おめでとう！」

世界・全国大会で活躍した中学生を紹介します。

野球 / M C Y S A 全米選手権大会
ジャパンチーム 優勝
7月25日～8月3日
(アメリカ イリノイ州)



関口 諒くん
(飯岡中・3年 / 九十九シニア所属)

陸上 / 第41回全日本中学校陸上
競技選手権大会
女子走り幅跳び 優勝
(5m92cm)
8月18日(香川県丸亀市)



杉村奏笑さん(二中・3年)

7
29

小中学生が議会を体験



質問する子ども議員

旭市子ども議会が旭市議会議場で開催され、市内小中学生22人が議会を体験しました。子ども議員たちは名前を呼ばれると、それぞれ登壇。通学路の整備や津波対策に関する質問などをしていました。議会を終えた子ども議員たちは「緊張した」「勉強になった」などと話していました。

7
31

旭で未来の「なでしこ」が農業体験



メロンの出荷作業を手伝う子どもたち

ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15の女子中学生18人が7月28日からの5日間、市内農家に宿泊しながら農業体験を行いました。農作業は初めてという子どもたち。「サッカーよりも大変」「いい体験ができた」などと話していました。

8
1

宝くじの助成金により祭用具を整備



整備された祭り用具

地域のコミュニティ活動の推進とその健全な発展を図るため、宝くじの収益により備品の整備などを助成するコミュニティ助成事業。萩園区では、この助成事業を受けて祭り用具を整備しました。区の鳴り物保存会は、1年を通じて毎週練習を重ね、地域の祭りや市主催の各種イベント・交流事業などで積極的に地域交流を進めています。

8
3

各世代がさまざま音色を奏でる



小ホールのラストは出演者そろって

第10回旭市民音楽祭が東総文化会館で開催され、約1,000人が訪れました。毎年、ピアノや吹奏楽、ロックやポップスなど幅広く愛好家が集うこの音楽祭。今年も多くのジャンル、子どもから高齢者までの参加があり、さまざまな音色がホールに響いていました。

あさひフラ・フェスティバル

刑部岬に響くハワイアンサウンド



多くの来場者が見つめるステージ

刑部岬の魅力の発信と、市の復興と発展に向けたイベント「あさひフラ・フェスティバル」が7月21日、飯岡刑部岬展望館～光と風～で初開催。

市内外から参加したフラダンスの団体などによるステージが行われたほか、会場にはハワイをテーマにした飲食店などが並び、多くの来場者でにぎわっていました。

医師への夢応援セミナー・ASAHI

夢を後押し 高校生が医師体験



手術着に着替えた高校生(中央)、鉗子の操作を疑似体験

医師を志す高校生を対象にした体験学習が、7月27日に旭中央病院で行われました。

これは医師になる具体的な目標を描くきっかけになればなどと、昨年からはじめた試み。この日は現役医師の下、実際に使われている手術支援ロボットを操作したり、縫合の手ほどきを受けたりする姿などがありました。体験を終えた一人は「今日のことを現実に。心のよりどころと呼ばれるような医師になれば」と話していました。